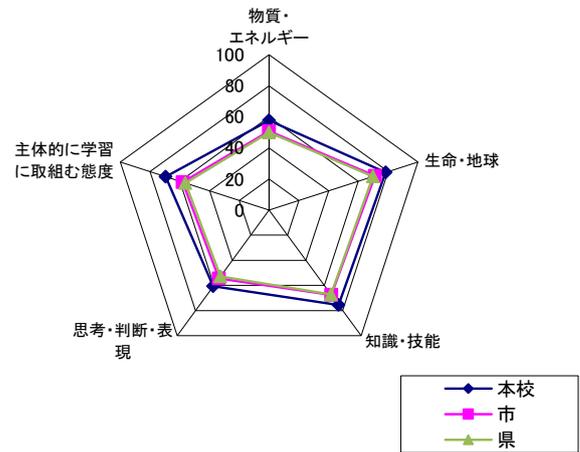


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.7	50.8	50.0
	生命・地球	78.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	75.6	67.6	67.2
	思考・判断・表現	60.7	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○本領域の平均正答率は57.7%で、県の正答率を7.7ポイント上回った。</p> <p>○「ペットボトルの容器などに水を入れたまま凍らせると容器が壊れることがある理由を、水の性質をもとに説明することができる」の平均正答率は63.6%で、県の正答率を13.6ポイント上回った。</p> <p>●「実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測することができる」の平均正答率は41.5%で、県の正答率を8.4ポイント下回った。</p> <p>●「乾電池の向きによって電流の向きが変わることを理解し、電流の向きは検流計の針の振れ方でわかることを指摘できる」の平均正答率は27.1%で、正答率は30%未満であった。</p>	<p>・「物の体積と温度」の学習内容において、温度が上昇したことによる体積変化は水よりも空気の方が大きいということは、多くの児童が理解していた。しかし、こうした体積変化の違いを、噴水の現象に思考を結びつけることは難しかった。今後は、基本的な知識・理解の定着だけでなく、噴水の実験のような発展的な課題にも、結果の仮説を立てたり、検証したりして取り組む機会を設けたい。</p> <p>・「電気のはたらき」の学習内容において、検流計の針の振れ方は回路の電流の向きに関係し、電流の向きを変えると検流計の針は逆に振れるということは、あまり理解できていなかった。今後は、検流計の使い方を示範したり、実際の電流測定を行ったりするときに、電流の大きさや向きと、針の振れる大きさや向きに着目させたりしながら、使い方の理解をより深めるようにさせたい。</p>
生命・地球	<p>○本領域の平均正答率は78.3%で、県の正答率を8.5ポイント上回った。</p> <p>○「満月の1日の動き方を理解している」の平均正答率は81.4%で、県の正答率を14.4ポイント上回った。</p> <p>●「腕を伸ばしているときの筋肉の様子について理解している」の平均正答率は67.8%で、県の正答率を1.2ポイント上回っていたが、正答率は70%未満にとどまっていた。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方を身に付けている」の正答率は、44.1%であり、正答率は50%未満にとどまっていた。</p>	<p>・「動物の体のつくりと運動」の学習内容において、腕を伸ばした時の筋肉の収縮・弛緩の仕組みは、理解が不十分であった。今後は、身体の模型を用いながら、筋肉が収縮・弛緩する様子がどのようなものか観察させたい。また、一方の筋肉のはたらきに付随して、拮抗するもう一方の筋肉がどのように働いているのかを、視覚教材や模型の動きを用いて確認させたい。</p> <p>・「月と星」における方位磁針の使い方については、N極の赤針を方位磁針内の北の位置に合わせなければならぬことを、方位磁針を用いながら指導し、使い方を確実に身に付けさせられるようにしていきたい。</p>